

## 「進歩後継」の新展開に向けて

日時：2010年5月6日（木）15時～

会場：湘南国際村センター第2研修室

[廣 田] 本日はお忙しいところご参集くださいまして、ありがとうございます。「進歩後継」というフォーラムをずっとやってまいりまして、昨年度で終わったのですが、特に高畑先生にお願いしまして、「打ち上げ」ということではなくて、次の発展のための会（「立ち上げ」の会）を今日開かせていただきました。本当にお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

それではイントロダクションはこれくらいにして、学長からご挨拶をお願いします。

### 高畑尚之氏の挨拶

[高 畑] 今日はお忙しいところご参集いただきまして、本当にありがとうございます。いま廣田先生からお話がありましたように、このフォーラムは平成14年から始まっていますので、足かけ8年になります。参加された方は40名にもなるということです。去年は一つの区切りにしようということで、これまでとは違ひまして三つの基盤機関を回らせていただいて、そこで基盤機関の先生方と意見交換をさせていただきました。

最初は7月に岡崎にまいりまして、2回目は、いまここにおられます菊澤さんにもお話をいただきましたけれども、民博で、それから第3回は、椿先生がおられますけれども、立川の三つの研究所でこういった催しをさせていただきました。

これまで「進歩主義の後継は」ということで進めてきましたが、このタイトルはなかなか悩ましいところがあります。スピーカーの方をかなり悩ませてきた経緯もありますので、一言、この進歩主義について申し上げたいと思います。

進歩というのは、もちろん当然のことですが、ある価値を持つ目標に向かうものです。価値ある目標設定と、その実現は人間だけに許された特権でもあって、それ自体、決して悪いことではないと思います。むしろいまの日本の国立大学のようにグランドデザインなしで競争環境に置かれて、選抜が起こるといようなことの方が問題で、これは進歩というよりむしろ生物の進化に過ぎないのではないかと思います。

しかし進歩主義が問題になるのは目標の片面的な設定であつたり、目標達成が予期せぬ結果をもたらすときです。そういった意味で一昨年に行ったフォーラムが、私は大変印象に残っています。これは11月1日に行ったのですが、その年にノーベル賞を受賞された小林先生に前もって話をいただきました。

そのとき小林先生が言われたのは、ニュートン力学についての限界だったのですけれども、現代文明の本質と関係して、私にとっては進歩主義を規定するうえで大変明解なお話であったといまでも記憶に残っています。詳しいことは第5回フォーラムのレジюмеがありますので、ぜひご覧になっていただきたいと思います。

ニュートン力学の論理というのは限られた部分系では有効ですけれども、系が複雑になるにつれて予言能力ががたっと落ちる。現代文明そのものがニュートン力学の上に成立していることを指摘されたうえで、人間は何らかのかたちで人間が設計したとおりに動くものをつくりだすわけですが、そのために邪魔になるようなものは一生懸命取り除いていくということをしています。

問題は普通の過程で起こることに反しながら、文明をそういったかたちで作りだしていつているという点にあります。したがって限られた部分が巨大化するといいますか、自由度が大きくなると、想定外のことが起こってしまうのが一つの問題点です。もう一つは、目標あるいは対象の外側に起こることをコントロールできないという点で、公害がその典型的な例だと指摘されました。

さらにそれを乗り越えるためにどうしたらいいかということで、複雑系の問題とか遺伝アルゴリズム等の問題について触れられていますけれども、私にとりましては、ニュートン力学的な現代文明のとらえ方は的を射ていて、かつ進歩主義が持っている大きな問題をあぶり出しているのではないかと思います。

私自身は生物の進化を研究してきたものですから、むしろ進歩とは反対側の立場に立ってまして、価値的意味や目的のない変化との対比でこのフォーラムに参加してきました。進化的な視点から生命の本質や人間の本質を考えようと努めてきたわけですが、特に生命の相互依存性を例示することから、人間中心主義の進歩の誤りを示してみたいということが、私の参加のモチベーションであったように思います。

一段落することで、この進歩主義のフォーラムは終わりますけれども、ある意味でこの問題の終わりはないわけで、これからも大学の一つの大きな課題として取り組んでいきたいと思っています。

今年度から新しい中期目標期間が始まりますけれども、それとともにセンターを改組しまして、事業も見直していこうとしています。大事な点は、やはり総研大は基盤機関が母体となっている高等教育機関ですので、そこの持っている力をできるだけつなぎ合わせて、相互に質を高めていくという連携が、それがこの大学に課せられた大きな課題ではないかと思っています。

そういった成果がもし出てくれば、すでに2回ほどシンポジウムを行いましたけれども、総研大の合同フォーラムとして一般社会に向けて情報発信していきたいと思います。今年度はそういったことで若干過渡的な時期にありますけれども、来年度以降、一つの新しい総研大らしい活動として位置づけて、積極的な展開を図っていきたくと思っています。これからもぜひお恵、それからご意見をいただければと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

[廣田] どうもありがとうございました。高畑先生のお話については、特に質疑応答はしないことにさせていただきます。先ほど学長から今日の会議の趣旨を言っていたのですが、新しい展開に向けて今日は出発の日にしたいと思っています。このフォーラムはずっと高畑さんと一緒にやってきたわけですが、二人で相談しまして、自然科学系からお一人、出発にふさわしいご講演をお願いしよう。それからお一人は、どちらかという人文系からお願いしようということで、大変お忙しいところですが、堀田先生と猪木先生にお話をお願いすることにしました。

もう一方お願いしたい、このフォーラムは高畑、廣田で企画、実施してきたのですが、鴨下先生は実は第1回から皆勤でして、この際、鴨下先生を与党側に取り込もうではないかと考えまして、鴨下先生には大変ご迷惑かもしれませんが、与党二人に準ずるということで、この際ご講演をぜひお願いしようということになりました。3番目のご講演は鴨下先生にお願いいたします。

鴨下先生、これからご迷惑をかけるようなことはしませんので、名誉会長のようなつもりでご参加いただきたいと思っています。それでは早速、堀田先生からお話をお願いします。